平成27年度 MieMu の活動と運営の全体の内部評価の概要

計画期間（3年）：平成26年度～平成28年度

内部評価結果（概要）

・総合博物館として自然と歴史・文化まで様々なテーマの展覧会を計14本開催することで、展示テーマに応じて新規来館者を獲得するとともに、年間を通じてリピーターも確保することができた。展示観覧者アンケートからは、お子様から高齢者の方まで幅広い世代にご覧いただき、満足度の4段階評価のうち、最も高い「満足」が約50%以上（「やや満足」を合わせると85%以上）を占めていることが確認できた。また、広報・営業活動により、中勢地域を中心に MieMu の認知度（約71%）を高めるとともに、企業パートナーシップ会員との連携事業や、長期会員を増やすことができた。

・一方で、昨年度と同様極めて多くの展覧会（企画展示5本、交流展示8本、トピック展示1本）を開催したことや、多様な主体との連携事業等を館内で数多く実施したこと、それらの対応等に館全体の経営資源のうち、極めて多くを配分せざるを得なくなったこと、開館2年目でまだ実施体制が未整備であること、展示等の技術・経験が職員に蓄積されておらず事業準備に時間がかかったことから、志摩地域を対象とする総合研究をはじめ博物館活動の根幹をなす資料収集・調査研究などに時間を割く事ができず、一部の事業における低い実施実績の要因になった。

・平成26年度の評価結果を受けて、他事業から注力すべき広報費への予算積み替えや、負担を分担するため企画展チーム制の導入などを実施したが、館内の予算や人員を効果的に配分できたのが一部分に留まった。今後、より効果的な運営体制を整えられるよう、評価制度の実施スケジュールを見直すとともに、館全体の予算・人員などの経営資源を効果的に配分し、職員が自ら PDCA サイクルに基づいて客観的に業務を管理する努力をさらに向上することで、効率的に事業を実施することが課題である。